

英語学習者用デジタル教科書の効果的な活用

～生徒の主体的な学びを引き出す～



令和の時代に求められる資質・能力の育成を踏まえて…

「令和の日本型学校教育」において、変化の激しい時代に必要な資質・能力を育てるには、生徒自身が自律した学習者である必要があり、岡山県では「学ぶ力（学力+意欲）」の育成のために、教師が「教え込む」授業から、生徒が「主体的に学ぶ」授業への転換を図っている。

学習者用デジタル教科書を、**教師の指導ツールから、学習者が学ぶツールとしての活用**に意識の転換を図る必要がある。そのために、本事業に2年間取り組んできたところである。

<本事業の目的>

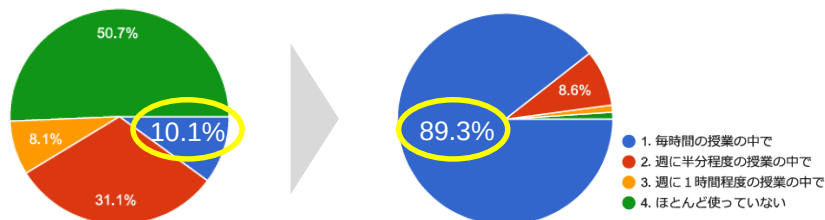
生徒の英語4技能を総合的に育成することを目的として、研究校に中学校2校を指定し、学習指導要領の趣旨を踏まえた英語の学習者用デジタル教科書の**効果的・汎用的な活用**について研究を行うとともに、その成果等について授業公開、研究協議等を通して県内に広く発信・普及する。

「個別最適な学び」における学習者用デジタル教科書の優位性

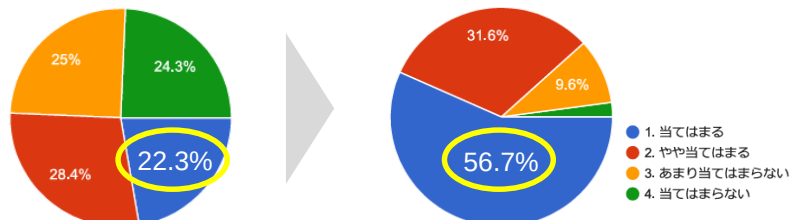
※研究校を対象にしたアンケートから、次のような傾向が見られた。

【研究開始時】

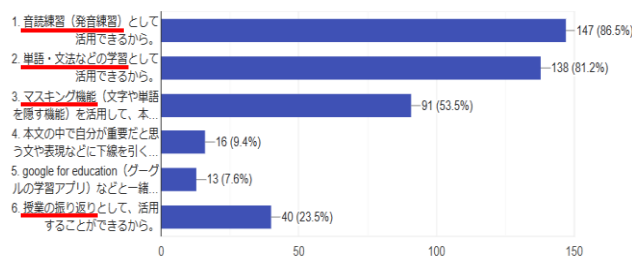
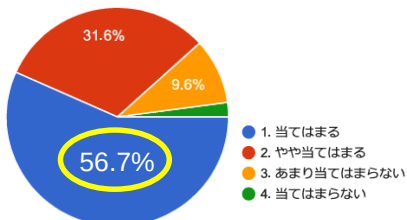
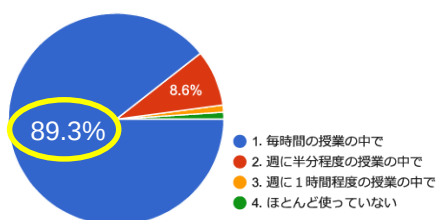
① 英語の授業で、学習者用デジタル教科書を活用している。



② 学習者用デジタル教科書を使うことで、**自分のペースや自分に合った学習方法で学習できる。**



【活用促進後】



資料2

音読練習、単語・文法の学習、振り返りの場面での活用！

生徒が自らの学びのために自分のペースで活用できる教材であると認識

学習者用デジタル教科書を使う頻度が高くなると、生徒はその利便性を理解して、**工夫して活用する様子**が見られるようになったよ。



倉敷市立北中学校の取組

主体的な学びを支援する学習者用デジタル教科書の活用 ～CAN-DOリストを基にした「WILL-DOリスト」の活用～

学習者用デジタル教科書で 単元末課題を攻略！

音読課題の設定（単元末課題）

単元末にパフォーマンス課題として「音読テスト」を設定した。生徒は自分が立てた目標達成に向けて学習者用デジタル教科書を積極的に使いながら、主体的に学習を進めることができた。

音読練習として活用

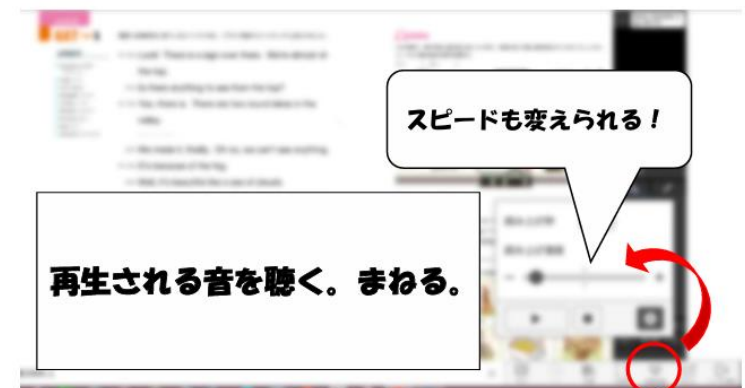
音声読み上げ機能を活用した個別の音読練習は、生徒が自分に合ったスピードで音声を聞くことができるため、生徒自身も進歩を実感でき、主体的に取り組む動機付けとなった。

個別の音読練習をする前に一度録音して、生徒自身のつまづきを自覚させてから、練習に取り組ませた。音読練習前に録音したものと、練習後に録音したものを聞き比べて、「どこが良くなったか」「なぜ良くなったか」を生徒に振り返らせることで、生徒は更に主体的に取り組むことができた。

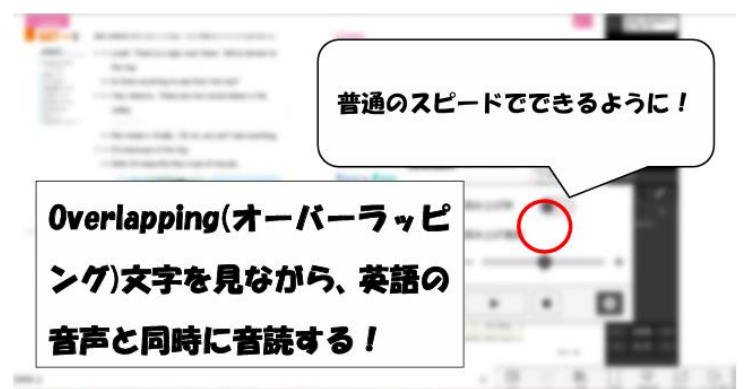
その際には、『デジタル教科書活用術（右図）』に沿って練習に取り組ませた。

倉敷北中学校デジタル教科書活用術

STEP1 再生される音を聞いて、まねる。



STEP2 普通スピードで Overlapping



学習者用デジタル教科書の活用場面を自分で設定する工夫

事例1 生徒に学びの見通しをもたせるためのWILL-DOリストの活用

Performance Test

ニュージーランドの中学生に聞いてほしい曲を、その理由等を加えて紹介することができる。

WILL-DO List

- ・その曲をおすすめする理由を3つ以上書く。
- ・Bodyの部分で教科書の本文を参考にする。
- ・話すスピードや声の大きさを意識して発表する。
- ・学習者用デジタル教科書で本文の音読練習をして、習った英語を発表ですらすら言えるようにする。

この Lesson で勉強すること

Starter	曲の紹介文を書く
Get1	現在完了進行形
Get2	現在完了進行形
USE-Read	好きな曲について読む
USE-Speak	○ニュージーランドの曲を紹介する
Take Action1	[Listen] 避ける [Talk] おすすめの曲を紹介する ○音読テスト

<WILL-DOリスト>

単元の始めに、生徒とCAN-DOリストを確認した後、単元末に行う活動を単元の始めにも取り組ませる。ゴールの姿をイメージさせ、今の自分がゴールの姿に近づくためには、どのようなことに取り組んでいけばよいか具体的にWILL-DOリストに記入させる。

事例2 「北中 Genius Time」を活用した自主学習時間の設定

WILL-DO List を実現するために、具体的にどんなことに取り組みますか？

Genius Time at Lessons (授業中で)

- ・友達と発表の練習をして、友達が使っていた表現を自分の発表に取り入れたり、話す態度について助言をもらったりする。
- ・デジタル教科書に大切だと思うことを書き込んだり、線を引いたりする。
- ・読めない英語が言えるようにデジタル教科書で音読をする。

Genius Time at Home (家庭学習で)

- ・紹介文の内容を考える。
- ・今まで学んできたことの中から発表に使えるような表現を探す。
- ・完成した紹介文を何回も読んで練習する。
- ・音読テストに向けて、デジタル教科書で発音の練習をして、家の人に聞いてもらう。

単元目標を達成するために、自分で必要だと思う英語学習の内容を考えて自由に学習する時間を設けた。自分は「何を」学習する必要があるのか、「どのように」学習するのか、「いつどこで」学習するのかなどを、「自分で」考え決定し、学習を続けていく力を身に付けることができる。

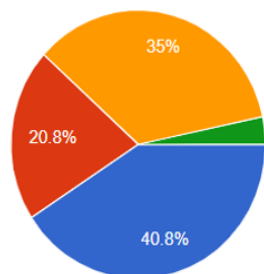
日々の授業の中においても、その時間のめあてだけでなく、単元末の活動とのつながりを意識することができるね。



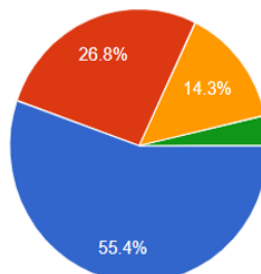
研究校の授業から学ぶ！

- ①Will-Doリストで学びを方向づけ向上心を高める。
- ②Genius Sheetを活用し、学びを自覚させるとともに、主体性を育む。

③パフォーマンステストに向けて、主体的に取り組んでいると思うか。



(R6年6月)



(R6年10月)

肯定的回答の割合が増加！

- 1. 当てはまる
- 2. やや当てはまる
- 3. あまり当てはまらない
- 4. 当てはまらない

生徒自身が見通しをもちながら学習をすすめ、学習内容の理解を深めるための学習者用デジタル教科書の活用

学習者用デジタル教科書×自己調整



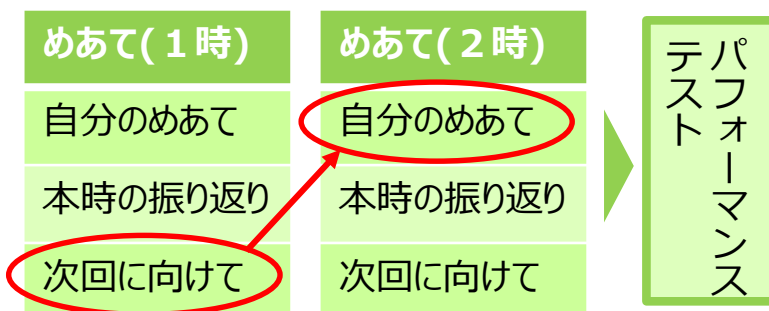
自己調整学習

「自己調整学習」の考え方を取り入れることで、学習者が授業の中で生じる学習課題に対して、自己解決の見通しを立てながら学習を進めることができるよう支援した。その過程において、生徒が主体的に学習者デジタル教科書を活用できるよう取り組んだ。

単元を買いた振り返りシートの作成

単元目標の達成に向けて、生徒がどのように学習を進めればよいかについて考える機会となるような振り返りシートに改善した（右図）。

1 単位時間ごとに、教師が示す「めあて」を基に「自分のめあて」を設定することで、授業中の活動を自分事として行えるようになった。また、前時の振り返りを基に本時の目標設定をすることで、生徒は前時の学習と本時の学習を関連付けた学習計画を立てることができた。



＜振り返りシートの改善点＞

家庭学習と授業を連動

生徒は毎時間の振り返りを繰り返しながら、単元末に設定されたパフォーマンステストに向けて、タブレット端末を家庭に持ち帰り、学習者用デジタル教科書や学習支援ソフト（Googleスライド等）を授業と家庭学習の両方で切れ目なく活用した。

生徒が自分自身で学習者用デジタル教科書の活用場面を位置付けることにより、音声機能を生かした活用に留まらず、単語や文法表現の蓄積を行うための書き込み機能等、自分の学びに適した活用方法を考えることができた。

授業における学習者用デジタル教科書の活用事例

事例1 前時の復習として、帯学習で活用

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援
1 「学習者用デジタル教科書」を用いて音読練習を行うか、「文字起こし」(音声入力)をするかを選択して取り組む	○シャドーイング(音声の後をすぐにリピート)、オーバーラッピング(同時に読む)、マスキング(文字を消す)などの工夫を促し、より自然に音読が出来るようにする ○学習者用デジタル教科書で学んだ発音が文字起こし(音声入力)をすることで、正しく出来ているか、様子を見取る ○発音が分からない等の場合は、デジタル教科書を再度聞くように促す

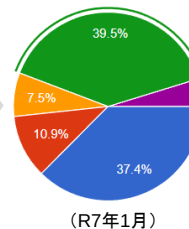
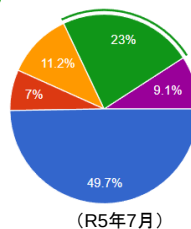
<文字起こし機能>

教科書本文を音読し、音声入力を行い、正しく発音されているかを自分で確認した。

授業の最初の5分～10分を音読練習に充てることで、前時に学習した本文の内容を確認しているんだね。



④ 4技能のうち、どの力が伸びていると思うか。



読む力が向上!

- 1. 聞くこと
- 2. 話すこと(発表) ※2
- 3. 話すこと(やりとり)
- 4. 読むこと
- 5. 書くこと

事例2 マスキング機能を活用したディクテーション活動及び再生活動

ポートフォリオ【課題15A】p.18 秒

Kaito: Hi, Meg. in! !

Meg: ? What's happening?

All: ! Happy birthday, Meg!

Meg: Oh, ! Thank you.

Kaito: And . The birthday girl a present!

Meg: Wow! ! Can I open it?

Kaito: .

Meg: Oh! a cute bag! it. Thank you much!

Kaito: You're .

ポートフォリオ【課題15B】p.82 18 秒

Kaito: , Meg. in! !

Meg: ? What's ?

All: ! Happy , Meg!

Meg: Oh, ! you.

Kaito: And . The girl a .

Meg: Wow! ! Can I it?

Kaito: .

Meg: Oh! a bag! it. you much!

Kaito: .

<マスキング機能>

マスキング機能を活用し、会話文の一部を隠し、聞き取った英語を正確に書き取るディクテーション活動を行った。また、家庭学習も含めて、音読を繰り返すことで本文の内容理解を深め、再生活動に取り組んだ。

事例3 新出文法をスライドに整理

unit4-1 文法まとめ①

「～しなければならない」
・ has to + 動詞 (原形)
・ have to + 動詞 (原形)

① けんは～しなければならない
⇒ Ken has to
② 今日早く起きる
⇒ get up early today
↓
けんは今日、早く起きなければならない。
⇒ Ken has to get up early today.

① 私は～しなければならない
⇒ I have to
② 手を洗う
⇒ wash my hands
↓
私は手を洗わなければならない。
I have to wash my hands.

1つ・1人なら has
2つ・2人以上なら have
になるよ!

読み方は has (ハズ→ハス)
have (ハヴ→ハフ)
になるよ!

IやYouは、have! になるよ!

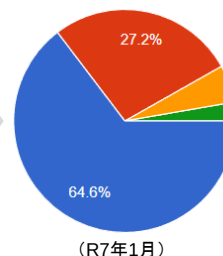
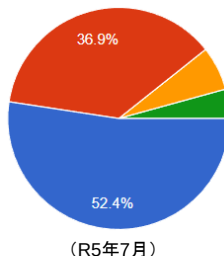
<プレゼンテーションソフトとの組み合わせ>

タブレットに搭載された他のソフトと組み合わせて、自分だけの文法解説ノートを作成する。

研究校の授業から学ぶ!

○自己調整を働かせながら学習者用デジタル教科書を活用させる。
生徒は積極的に使ううちに、**自ら効果的な活用方法(学び方)を身に付ける**。教師はその機会を十分に設けることが大切。

⑤ 授業の中で学習者用デジタル教科書を自由に選択して使えるか。



生徒自身が学び方を選んでる!

- 1. 当てはまる
- 2. やや当てはまる
- 3. あまり当てはまらない
- 4. 当てはまらない

英語指導アドバイザーからのフィードバック

令和5～6年度の2年間に渡り倉敷市立北中学校で行われた「英語デジタル教科書活用実証研究事業」は、生徒たちの主体的な学習を支援しようと工夫を重ねた先生方が生み出した創造的なアイデアにより、大きな教育的成果をあげたと思います。

生徒が自らデジタル教科書やICTツールを駆使して、学習方法を選択して取り組む活動、生徒間で助言し合う協働学習、目的を持って家庭学習を行う「Genius Time」の設定や、主体的に学習目標設定する「Will Doリスト」の作成、それらを効果的に授業に組み込む単元開発などを行ないました。さまざまな工夫（ツール）を行うことで、倉敷市立北中学校の指導と評価の方法（ルール）、生徒たちの学びに向かう姿勢は大きく変わりました。

関西大学 外国語学部 教授 今井 裕之 先生



津山東中学校では、デジタル教科書を活用しながら、生徒が主体的に学ぶ授業の実現に力を入れてこられました。

今年度11月に行われた公開研究会では、生徒がデジタル教科書を活用しながら自由進度で学びを進めていました。例えば、教科書の本文にマスキングがされているページを参照しながら文章を完成させ、英文法に関する理解を深めたり、ネイティブの発音を何度も聞いてシャドウイングしたりし、自らの課題に合わせ学習方法を選択しながら学ぶ姿が見られました。

また、生徒が自由進度で学習を進める上で、生徒が自らの学習を調整しながら学ぶことができるよう、その時間の学習活動とそれぞれの時間配分が示されており、生徒が限られた時間の中で、効率よく学習を進めようとしていました。このように津山東中学校では、デジタル教科書の機能を生徒が有効に活用し、自ら学びを深めていく研究が進み、子どもたちが主体的に学ぶ授業が実現されていました。

桃山学院教育大学 人間教育学部 准教授 木村 明憲 先生



令和7年3月

岡山県教育庁義務教育課